

様々な学修形態に即座に対応できる

効果的なアクティブラーニングの実現

飯塚キャンパス インタラクティブ学習棟 MILAiS



様々な学修形態に即座に対応できるよう、90 席以上収容可能な大空間に、可動式の机や椅子、四方の壁に計 8 面のスクリーンを整備

【ポイント】

様々な学修形態に対応できる効果的な学修環境

フレキシブルな学修環境

- 空間に前や後ろといった固定的役割を持たせない。
- ネットワークは無線・有線双方に対応、ICT 機器の配線は壁に埋め込み、什器は全て可動式のもの配置。

教養教育から専門教育まで対応可能な ICT 機器の導入

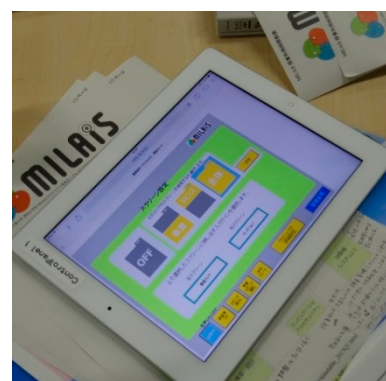
- 専門科目にも対応可能な性能を有し、運営スタッフによる一括管理・更新が可能な PC、ソフトウェアを選択。
- 2 つの資料を関連付けて提示できるよう、プロジェクト、スクリーンを 2 面セットで配置。

授業コンサルティングと運用改善

- 全学支援組織「学習教育センター」教育・FD 支援部門所属のスタッフによる授業のコンサルティング、助言・サポートを実施。
運用方法の変更にも必要に応じて迅速に対応。
- ICT 機器の管理・更新は学生スタッフが中心となり実施。



一方には概念の説明、もう一方で具体的なプログラムを見せる等、2 面セットのスクリーンを駆使した授業の様子



計 8 面のスクリーンへの投影をどこからでも、簡単に行えるようにするために独自開発され、使いながら改善が重ねられてきたタッチパネルインターフェース

整備による効果

授業デザインの進化

- 教員アンケートより、授業の継続的な改善や、授業に新たな技術を取り入れたりすることができるようになったと評価されている。
- ロボット製作の授業では、キャンパス内のものづくり工房やラーニングアゴラ棟を含めて活動を展開し、プログラミングから部品作成、組み立て、動作確認等、多様な活動が可能。

授業での稼働率 80%超

- 能動的学修やプロジェクト型の学修が活発に行われている。ある科目では整備前後の成績を比較し、向上がみられた。



平成 27 年 4 月、戸畑キャンパスにオープンした「MILAiS（未来型インタラクティブ教育棟）」内観

他のキャンパスへの展開

- 平成 27 年 4 月、戸畑キャンパス（工学部）にも、「MILAiS（未来型インタラクティブ教育棟）」が整備された。インタラクティブ・ラーニング・コンプレックス（対話的・複合的な学修環境のデザイン）のコンセプトに基づく施設であり、施設を活用した様々な協働学修が始まっている。

整備の背景・目的

- 平成 22 年度から 27 年度の第 2 期中期目標にて「学生の自立力、PBL 等へのグループワークによる教える教育から考えさせる教育への教育改革」「国際的に通用性のある技術者保証」を掲げている。
- MILAiS 整備に先立ち、平成 21 年度頃より一部の教員によって従来型の教室（固定の長机等）の中で多様な協調的授業が始められており、そのような授業に対応できる施設整備が求められていた。このため、インタラクティブ学習棟が整備された。

更なる展開

得られた知見を今後の整備に

- 平成 25 年からインタラクティブ・ラーニング・コンプレックスの整備が進められている。
- 先行して整備された MILAiS で得られた知見を今後の学修スペース整備にも活かしていく。

スタッフの活動充実と

スペース確保

- 学修スペースの機能を支える運営スタッフの育成や活動の充実を図るためにも、活動スペースの確保が望まれる。